

プラットフォーム名	地域研究に関する学術写真・動画資料情報の統合と高度化
研究期間	平成28年度～平成30年度
研究支援代表者	吉田 憲司 (国立民族学博物館 館長)
研究支援代表者からの報告	<p><u>(1) プラットフォームの目的及び意義</u></p> <p>日本の研究者による世界各地での現地調査の際に撮影された画像資料は、世界諸地域の調査当時の実態を記録した貴重な研究資源であるとともに、日本の学術史を反映する学術遺産でもある。本研究支援事業の目的は、地域研究に関わる進行中の科研費プロジェクトを対象に、過去に蓄積された画像資料のデジタル化・データベース化を通じて申請者の科学研究を支援し、将来にわたる研究情報の集積と共有化の基盤を整備することで研究の格段の進展を促すことにある。また、この事業を通じて、世界の諸地域に関する画像資料を集積したデータベース「地域研究画像デジタルライブラリ」(略称 DiPLAS) を構築し、時空と分野を超えた研究の展開や、新たな研究領域の開拓にむけての基盤とする。本事業の実施にあたっては、進行中の科研費代表者を対象に広く公募をおこなっている。採択されたプロジェクトに対しては、当該プロジェクトの所蔵する画像資料をプラットフォームにおいてデジタル化・データベース化し、さらには地域研究に関わる基本情報と画像内容に関わるテキスト情報の入力を支援することで学術資源としての整備をはかり、プロジェクト内での共有化を進めてきた。このデータベースは逐次、情報を付加・充実できる仕様とし、支援期間の終了後も継続的に学術研究の展開に活用できるものとしている。こうして整備されたデータをプラットフォームに集積することにより、最終的には地域研究画像資料の国際的共有化をはかる。</p> <p><u>(2) 研究支援活動の進展状況及び成果の概要</u></p> <p>本プラットフォームでは、平成28年度に5件、29年度に8件、30年度に11件、合計24件の科研費プロジェクトを採択し、支援をおこなった。その成果として、計4件の写真展を国内外で実現している。</p> <p>平成30年度からは、文字情報をプラットフォーム側で入力することを徹底し、希望者には、口述音声の文字入力支援も実施した。また、AI(人工知能)を利用して、画像内容の自動タグ付けをおこなえるようにした。これにより、人物が写り込んでいる画像の一括抽出が可能になり、肖像権処理のための探索や連絡が容易になった。このシステムには、人物の顔の検出機能も実装する予定であり、画像抽出のさらなる効率化をめざしている。</p> <p>平成30年11月末までにサーバーに登録した65,113点の画像のうち、基本情報の入力が完了して限定公開(アカウント所持者に対する学術利用目的の公開)がなされているものは45,690点である。科研費プロジェクト側では、プラットフォーム側が提供したデータベースを用いて、科研の研究計画を遂行しつつある。</p> <p>本事業の推進により、個々の研究者が私蔵してきた研究資料画像のプロジェクト内部での相互利用が可能となり、公募プロジェクトの研究に格段の進展がはかられてきている。とくに、各地域における海外学術調査の成果の蓄積を画像の形で一望し、その歴史的変化を追うことが可能になった。この事業を通じて、20世紀後半以降の世界を知る上で、質量ともに比類のないデジタルライブラリが構築され、地域研</p>

	<p>究に係るオープンサイエンスの基盤が形成されてきている。</p>
<p>科学研究費補助金審査部会 における所見</p>	<p><u>A- (プラットフォームの目的に照らして、概ね期待どおりの成果が認められるが、目的達成に向けて事業計画を一部改善の上、継続を認める)</u></p>
	<p>本プラットフォームの目的は、科学研究費助成事業により実施されている地域研究に関わる研究を対象に、過去に蓄積された画像資料のデジタル化・データベース化を通じて申請者の研究を支援し、将来にわたる研究情報の集積と共有化の基盤を整備することで研究の格段の進展を促すことにある。</p> <p>本プラットフォームの展開により、時空を超えた分野横断的な研究に貢献し、地域研究のデジタルライブラリの構築が期待される。また、AI 導入による画像自動入力、画像顔認識の効率化、申請ハードルの軽減化、など、採択時の所見等への対応やそれに伴う改善も図られており、徐々に成果を上げている。</p> <p>一方で、本プラットフォームへの申請件数・採択件数はともに十分とは言えない。シンポジウムやワークショップを開催しているものの、参加者が多いとは言えず、関連領域を含めた本プラットフォーム外の関係者に対する一層の周知が望まれる。また、本プラットフォームを利用して得られる成果とは何なのかを明示し、申請件数を増加させる方法について、更に検討する必要がある。</p> <p>プラットフォーム全体の今後のより一層の努力が望まれる。</p>